

総合教育会議 (令和7年度第2回) 会議録(議事要旨)

| | | |
|------|------------------------------|-------------------------|
| 日時 | 令和8年2月27日(金) 10時00分～11時00分 | |
| 場所 | 久留米市本庁舎20階 第3委員会室 | |
| 出席委員 | 原口 新五(久留米市長) | |
| | 井上 謙介(教育長) | 江頭 理江(教育委員) |
| | 内村 直尚(教育委員) | 御厨 千秋(教育委員) |
| | 富永 孝太朗(教育委員) | 小田 まり子(教育委員) |
| 事務局 | 平田 敬一(教育部長) | 原武 泰将(総合政策部長) |
| | 藤原 誠二(教育部次長) | 四ヶ所 清隆(教育監) |
| | 東野 淳(教職員課長) | 大鶴 浩子(教育センター所長) |
| | 深堀 尚子(総合政策課長) | |
| | 渡辺 唯希(学校施設課長) | 中島 幸弘(学校施設課計画主幹) |
| | 石橋 豊裕(教職員課人事管理担当課長) | |
| | 田中 浩之(学校教育課長) | 下川 嘉満(学校教育課指導主幹) |
| | 古賀 友理子(学校教育課学務主幹) | 豊福 健一(学校教育課人権・同和教育担当課長) |
| | 原 英治(学校教育課主幹) | 平塚 淳也(学校教育課教育支援主幹) |
| | 小形 孝徳(学校給食共同調理場所長) | 新村 敏(教育ICT推進課長) |
| 報告者 | 内山 忍(ダンデライオン不登校ひきこもりを考える親の会) | |
| | 内山 晃(ダンデライオン不登校ひきこもりを考える親の会) | |

1 開会

平田教育部長 (開会宣告)

2 あいさつ

原口市長

3 議題

(1) 久留米市の不登校に関する取組について

平田教育部長 それでは本日の議題である「久留米市の不登校に関する取組について」に進みます。

まず、事務局から市の不登校に関する支援の概要を説明させていただきます。その後ダンデライオン不登校ひきこもりを考える親の会の代表である内山 忍様に、不登校の状況や取組について、お話ししたいと思います。

学校教育課 (事務局説明)

田中課長

平田教育部長 それでは、ダンデライオン不登校ひきこもりを考える親の会の内山様、宜しくお願いします。

内山 忍さん (ダンデライオン不登校ひきこもりを考える親の会説明)

内山 晃さん

内村委員 実際に不登校を経験された晃さんにお尋ねしますが、学校に行けなかった時の気持ちと、今、当時を振り返ってどう思うかを教えてください。

内山 晃さん 当時は、夏休みの最終日がずっと続いているような感覚でした。不登校にならなかったほうが良かったなという気持ちはありますが、不登校になったことで、今の自分があると思っています。

内村委員 夏休みの最終日がずっと続くとは、具体的にはどのようなことでしょうか。

内山 晃さん 例えると、課題の締切があるのにやっていないという焦りがずっと続くような気持ちです。周りは受験に向けて動いているのに、自分は動いていない、勉強のカリキュラムも遅れているのに、自分はスマホやゲームばかりで、焦りがあるのに動き出せないといった、心と体が縛られているような感覚です。

内村委員 最初、学校に行けなくなったきっかけはありますか。

内山 晃さん 今振り返ってみると、中学のはじめに、委員会活動や自分に合っていない部活動を続けていた等、自分の許容量を超えてしまったことが原因でないかと推測しています。ただ、当時は、何が原因で行けなくなったのか自分でも理由が分からず、辛かったです。

内村委員 徐々に行けなくなったのでしょうか。それとも突然行けなくなったのでしょうか。

内山 晃さん 徐々に行けなくなりました。最初は1日休んで、次に2日休んで、といったように、だんだんと休む日数が増えました。2週間程度休んだ頃、親にも次は行くと宣言していましたが、結局行けずに、父に怒られたこともありました。

原口市長 不登校ではなくなった際に、何か心に残った言葉やきっかけはありましたか。

内山 晃さん 2点あります。1点目は、時間が解決してくれたことです。学校に行かない時間が長くなり、精神的にも慣れてきた結果、学校へ行けるようになるということはあると思います。2点目は、親から認めてもらい、そして寄り添ってくれたことです。

原口市長 保護者から何か言葉をかけましたか。

内山 忍さん 言葉をかけたというより、子どもに対する見方を変えたことが大きいと思います。育てようという気持ちから、子どもの成長を見守ろうという見方に変える必要があると認識したことが、ターニングポイントであったように思います。

富永委員 夫婦間で何か葛藤はありましたか。

内山 忍さん その当時は、夫が単身赴任で、週末だけ帰って来ていました。週末は学校がなく子どもは元気になるため、夫は平日に学校へ行けないことが理解できず、単に「学校へ行かせればいい」と言っていました。ある日、部活なら行けると言うため、夫に連れて行ってもらったことがありましたが、やはり行けずにおりました。それでも夫が子どもに車から降りるよう促したところ、それまで見せたことのない凄い形相で夫を見たため、やっと状況を理解した夫は、それ以降、無理して行かせることはなくなりました。

また、同居している祖母とは、不登校に対する受け止め方に世代間の違いもあり、考え方がすれ違い、意見がぶつかることもありました。

しかしながら、3人目の子どもが行き渋りになった際には、かえって祖母や夫のほうが深く理解し、寄り添っていました。

御厨委員 私は保育士として働いておりますが、欠席理由が登園拒否ということが増えてきているため、不登校の低年齢化という点は頷けます。しかしながら、欠席理由が毎回登園拒否というわけではなく、その都度理由は違っていきます。長い期間でみると、理由が1つだけではなく都度変化していくため、それに対して周りが気付いていく必要があると感じます。

また、私が実際に不登校の中学生に聞いた話では、学校を欠席している本当の理由は「SNSの時間を確保するため」ですが、周囲には「勉強」や「友達との関係」など、大人が納得するような理由を話しているという子もいました。そういう理由を抱えている子どもがどれくらいいるのかお聞きしたいです。

ちなみに、冒頭の説明で、晃さんから「世の終わり」という言葉がありましたが、決してそういうことはなく、不登校や引きこもりを経験したからこそ得たものを、同じような悩みを抱えている子どもたちに今後とも伝えていただきたいなと思い、意見として申し添えます。

内山 晃さん SNSが不登校の直接的な原因となっている人がどれくらいいるかは分かりませんが、SNSが不登校の一因となっていることには同意します。私は、SNSやスマホ利用の低年齢化が問題だと考えており、年齢が低ければ低いほど、学校よりも楽しい方に流されてしまうと思っています。また、スマホやSNSを使うことで脳が疲労してしまい、朝起きられなくなり、最終的に不登校に繋がることもあるため、SNSやスマホの制限は必要ではないかと思います。

小田委員 ICTを活用したつながりや学習支援の中で、57名という利用者がいる状況ですが、このようなICTを活用した支援は不登校の方にとって有効な支援だと感じますか。また、どのような形で支援するのがいいのか教えてください。

また、課長にお聞きしますが、利用状況について、現在どれくらいの頻度で行われているのか、教えてください。

内山 晃さん ICTによる支援については、不登校施策推進委員会において意見交流等も行っており、良い支援になっていると思います。

なお、勉強以外の科目、例えばExcelやPowerPointの使い方、プログラミングやAIといった等の実務的な学習もできるとより一層良いと思います。

小田委員 勉強以外の科目を学びたいというのは、将来に不安があって、実務的な能力を身に付けたいという気持ちが強いからでしょうか。

内山 晃さん 実務的なスキルを大学で初めて学んで興味を持つ人よりも、小学校や中学校から学ぶことで、早い段階で興味を持つことができるため、視野が広がり、将来が充実するのではないかと思います。市の ICT を活用した学習支援が、将来に繋がるきっかけになれば良いなと思います。

学校教育課
田中課長 利用状況に関するお尋ねですが、月水金の週 3 日行っている中で、およそ 3 割の児童生徒がほぼ毎回出席、次の 3 割の児童生徒が時々出席、残りの 4 割程度の児童生徒は出席できていない状況です。

具体的な活動としては、不登校学習支援サポーターと一緒に MC を担う等、個人が役割を持つことで、自己肯定感が高まったり、年齢を問わずに、出席している全ての子ども達がコメントで交流することで、人とつながることができる重要な場になっていると思います。

以前、晃さんとお話した際、晃さんの言葉で印象的だったのが「ずっと一人で家の中に閉じこもっている中で、ゲームという世界で誰かと繋がり、救いになった」という言葉でした。

この事業を通して、誰かとつながることがいかに大事であるか、実感しているところです。

小田委員 そのような場に参加した場合、学校においても出席扱いになるのですか。

学校教育課
田中課長 この事業については、校長が判断すれば出席扱いになります。なお、毎月の出席情報は、学校側へフィードバックをしています。また、学校側から問い合わせがある場合もあり、児童生徒がどういった様子だったのか、家庭訪問をする中での声かけ等に活用しているところです。

江頭委員 晃さんにお聞きしますが、フリースクールの良さを教えてください。また、忍さんにお尋ねしますが、親の会の中でも、きょうだいがいた場合には、複数のきょうだいで学校への行き渋りが起きるものなのか教えてください。

内山 晃さん フリースクールは、何かに所属しているという社会的欲求が満たされることが大きいとっております。家にいるだけでは、どの団体・組織にも所属しておらず、世界が狭まってしまいう気になるので、フリースクール等に所属していた方が、次の段階へ踏み出しやすいと思います。

江頭委員 フリースクールと通常の学校について、違いやフリースクールの良かった点があれば教えてください。

内山 晃さん 大きく違うのは、フリースクールは自由だということです。色々な形態があり、友達と遊ぶ人もいれば、勉強している人もいて良かったと思う反面、社会的欲求が満たされるからこそ、焦りが生まれにくい、次の一歩を踏み出した気になってしまうという点は、デメリットであると思います。そういった経験から、私は、遊ぶ時間や勉強する時間、交流する時間などにもっとメリハリをつけて、次の一歩を踏み出しやすいような環境づくりをする必要があると思っています。

内山 忍さん きょうだいで学校への行き渋りがあるかと言われると、どちらとも言えませんが、上の子が学校に行けていないとなると、親の気持ちも沈んでしまうので、下の子は影響を受けやすいと思います。逆に下の子の影響を、上の子が受けることは少ないと感じます。

井上教育長 お子様が最初に不登校になった時に、どこに相談しようと思われましたか。どういう仕組みや相談体制があれば良かったかなど、過去を振り返られてどう思われますか。

内山 母 最初に相談するのは間違いなく担任の先生です。担任の先生が、不登校について知っておくことが大事だと思います。子どもが学校に行かなくなると、保護者も自己肯定感が下がるため、担任から「学校に来たほうが良い」という話をされると、学校へ相談に行こうと思えなくなってしまいます。スクールカウンセラーにも相談しようと思えません。実際に、私は、学校関係者ではない人「学校でないと子どもが育っていかないという考えを持たない人」に相談をしておりました。人によって考え方は違うとは思いますが、まずは担任の先生や保健室の先生などに理解していただくことが、親子関係がこじれないための最適解だと思います。

井上教育長 学校が理解したうえで、フリースクールや相談体制、親の会等を紹介する流れが良いですか。

内山 忍さん そうですね。まずは担任の先生と相談しやすい関係があると良いと思います。

井上教育長 晃さんからみて、不登校になった際に、まず誰に相談すると思いますか。

内山 晃さん 子どもの立場からすると、学校には相談できないかもしれません。自尊心が傷付けられているため、家族にしか知られたくないと思います。本人ではなく、親を通じて学校へ相談するケースがほとんどだと思います。

井上教育長 本人にとっては、保護者を通じて色んな機会を学んでいくほうが良いと思いますか。

内山あきら そうですね。自発的に動くことができる、もしくはそのエネルギーを持つ子であれば、学校に行けていなくても、学校に戻れる素質があると思いますし、そもそも不登校になりやすい子ではないと思います。

3 報告事項

(1) 教育職員に関する業務量管理・健康確保実施計画の策定スケジュール等について

平田教育部長 次に、報告事項の(1)教育職員に関する業務量管理・健康確保実施計画の策定スケジュール等について、事務局より説明させていただきます。

教職員課 (事務局説明)
石橋課長

平田教育部長 事務局からの説明は終わりました。
ご意見やご質問があれば、お願いします。

(なし)

平田教育部長 市長並びに教育委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。
また、内山様からは、貴重なお話をうかがうことができました。

それでは以上をもちまして、令和7年度第2回久留米市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。